

2018 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	三田市国際交流協会
活動テーマ	①地域に住む外国人が日本の災害を実体験することにより、防災意識の向上を図る ②災害時の自助、共助のための外国人相互および外国人と支援者とのコミュニティ・ネットワーク形成を図る



阪神淡路大震災では日本人に比べ外国人の被災率が大幅に高かった。日本語理解の問題も大きいですが、それ以上に防災意識の問題があると考えられる。世界の陸地で地震が起きるところはほんの数%に過ぎず、地震や他の災害が起きない地域出身の外国人は防災訓練や防災教育を受けていない場合が多い。そのため、実際の地震の脅威を知り、防災意識につなげるため、体験施設訪問を行った。また、自助共助には少しでも多くのコミュニケーションネットワークが必要である。地域での交流がなかなか十分に取れない外国人のネットワークを広げる場づくりも目的とした。

「人と防災未来センター」(神戸市)と「野島断層保存館」(淡路市)を訪問するバスツアーを実施し、スクリーン映像での震災の様子を知り、野島断層で威力を感じた。地震体験車で、立つこともじっと座っていることさえできない地震を体感した。約1か月後に振り返りイベントを行い、新聞紙でのグッズ(スリッパや食器)づくり、災害サバイバル料理(ポリ袋カレーなど)、防災用品の説明などを行い、さらに災害時の対応について、知識や経験を深めた。国際交流デーで本事業の紹介と防災クイズコーナーを設け、地域の人にも周知することができた。

これらの事業を通じて、参加者は今まで意識していなかった日本の災害を体感し、備えの大切さや方法を知り、防災用品などの準備、家族での話しあいにつながった。参加者同士のコミュニケーションネットワークの構築や市や地域の防災担当とのつながりができた。今後、地域との連携をさらに増やしていく機会を作りたいと思う。